

第5章

認知症施策

- 第1節 早期発見と早期診療ができる体制づくり
- 第2節 認知症の正しい知識の普及啓発
- 第3節 認知症の人とその家族への支援
- 第4節 認知症支援ネットワークの構築

第5章 認知症施策

認知症になっても安心して地域で暮らせるように認知症施策や権利擁護事業を推進します。認知症施策については、「臼杵市の認知症を考える会」を軸として、継続的に認知症対策に取り組んでいます。また、認知症の予防と安心して暮らせるまちづくりを目指すため、条例の制定に向けて検討を進めています。

第1節 早期発見と早期診療ができる体制づくり

1 臼杵市の認知症を考える会

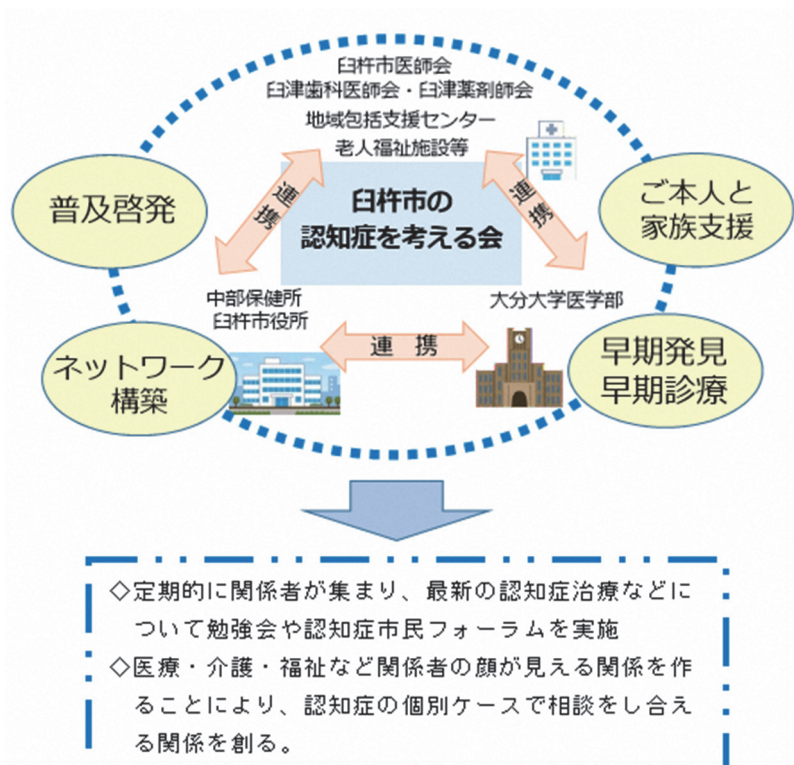
臼杵市の認知症を考える会は、医師会・大学・臼杵市が中心となり平成 22 年度に発足し、現在は、発足時の3者に加え、歯科医師会・薬剤師会・老人福祉施設等、多くの関係機関が連携する体制で取り組んでいます。

この会は、臼杵市の認知症対策について、認知症予防の視点で検討しながら、最新の認知症治療等の勉強会の実施や、市民啓発のため認知症市民フォーラムを開催しています。

また、他職種への理解を深め、保健・医療・介護・福祉関係者のネットワークを構築するため「多職種事例検討会」を開催しています。医療関係者や行政職員、介護従事者等、様々な多職種が参加し、認知症の人への対応等について検討しています。

さらに、生活習慣と認知症発症の関連性を解明する認知症予防研究事業を産学官で共同して行う等、独自の事業展開を図り、強い連携体制のもと、認知症予防と早期発見、早期治療に繋げる取組を進めています。

■ 臼杵市の認知症を考える会について



2 臼杵市認知症お助け帳～認知症ケアパス～

臼杵市認知症お助け帳～認知症ケアパス～は、認知症の基礎知識と、認知症の進行とともに「いつ」「どこで」「どのようなサービス」を受けられるのかをまとめたものです。臼杵市では認知症の人とその家族が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、認知症ケアパスを始め、認知症施策に関する情報をホームページ等を活用して、広く普及を推進しています。

■ 臼杵市認知症お助け帳～認知症ケアパス～

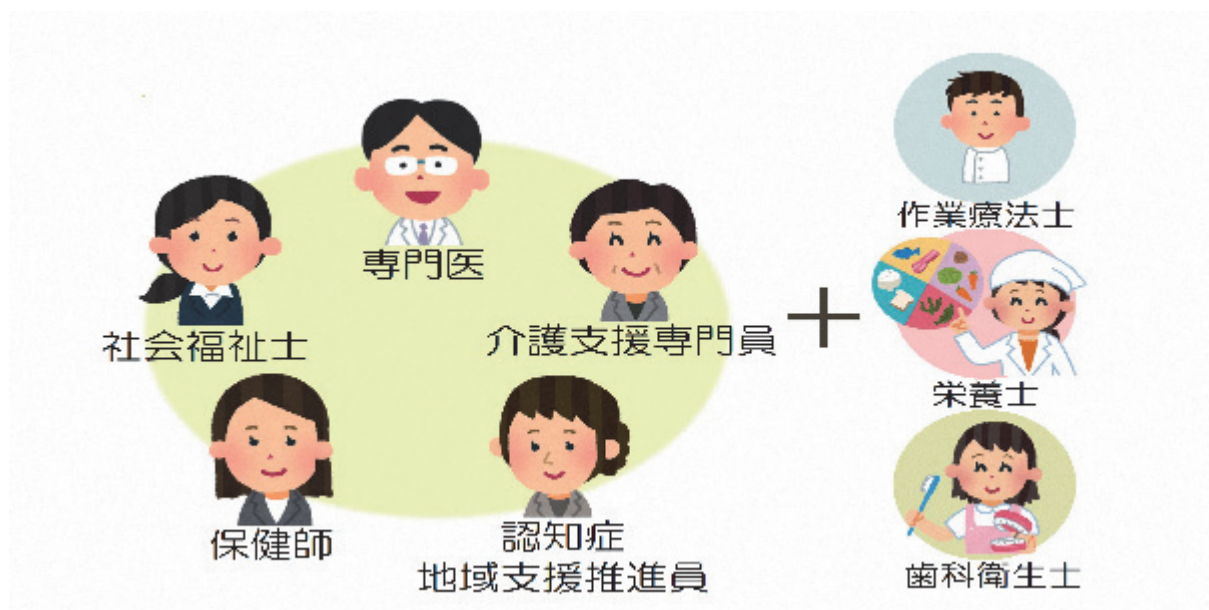


3 うすきオレンジサポートチーム(認知症初期集中支援)

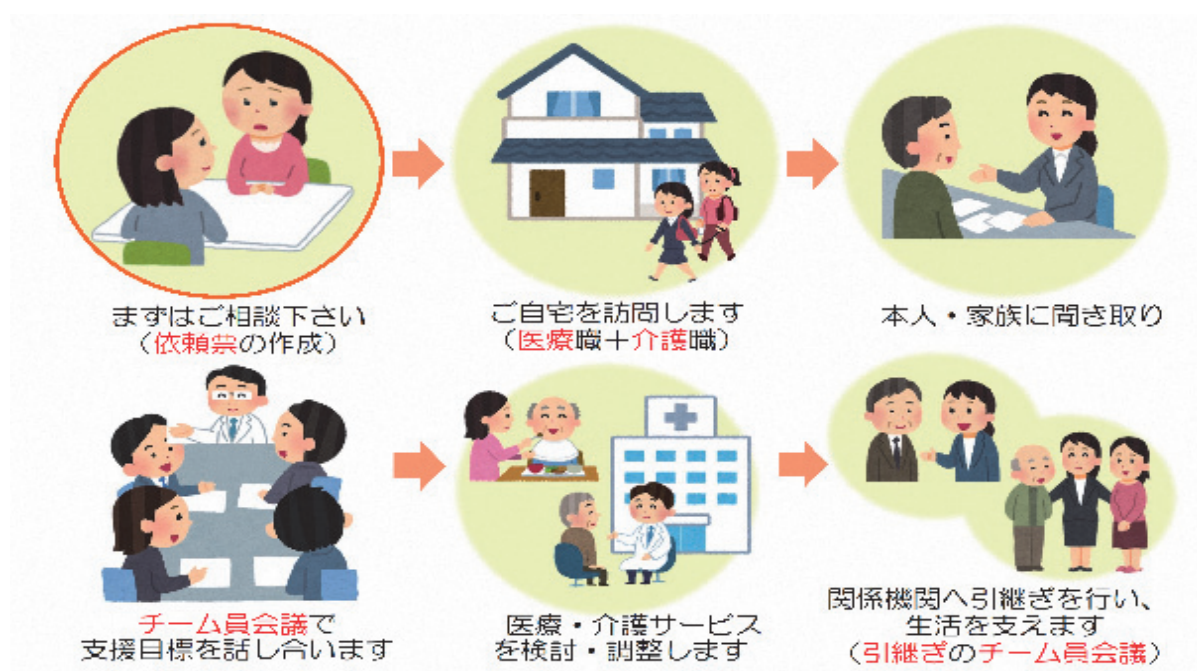
早期に認知症の鑑別診断が行われ、速やかに適切な医療・介護等が受けられるように初期の対応体制を構築するため、「うすきオレンジサポートチーム(認知症初期集中支援チーム)」を設置しています。これにより、認知症専門医の下で複数の専門職が、認知症が疑われる人又は認知症の人とその家族を訪問し、アセスメントや家族支援等の初期支援を行い、自立生活をサポートするため、チーム会議を行います。

「認知症初期集中支援チーム検討委員会」を設置し、オレンジサポートチームの活動等を検討します。

■ うすきオレンジサポートチームとは



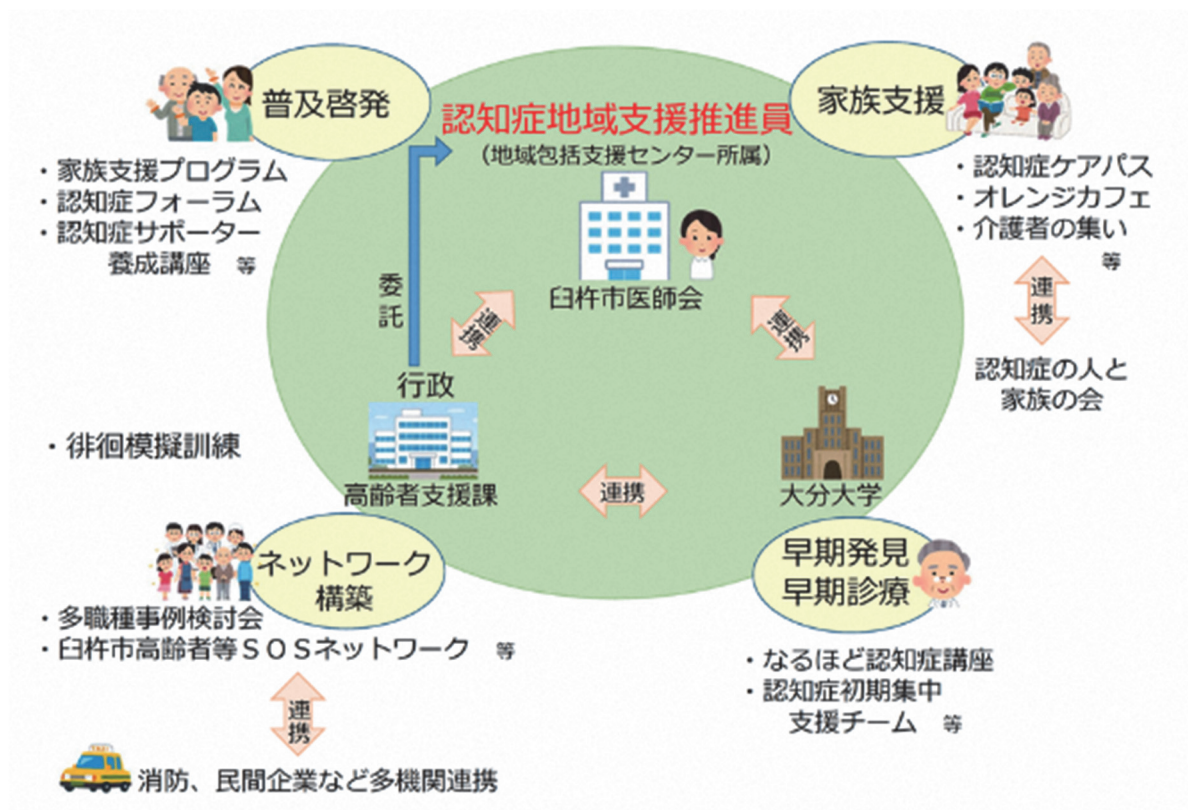
■ 相談から支援の流れ



4 認知症地域支援推進員

認知症の人とその家族に対し、状況に応じた適切なサービスが提供されるよう、医療機関・介護サービス事業所・地域の支援機関等、認知症の人を支援する関係者の連携を図り、事業の企画調整等を行う「認知症地域支援推進員」を平成27年度から配置しています。

■ 認知症地域支援推進員の役割



第2節 認知症の正しい知識の普及啓発

1 臼杵市認知症市民フォーラムの開催

平成 22 年 11 月、鳥取大学の浦上先生をお呼びして、「臼杵市認知症市民フォーラム」を開催しました。これをきっかけとして、認知症についての正しい理解を市民に普及し、地域での見守り支援等につなげていくために、2 年に一度、臼杵市認知症市民フォーラムを開催し、毎回 1,000 人以上の参加者があります。令和 2 年度は 11 月に開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期になりました。

2 認知症高齢者等声かけ模擬訓練

全国的に、認知症の高齢者等がある日突然姿を消して行方不明になるケースが増えています。行方不明時においては、関係機関と連携、地元の自治会等、近隣の方々にご協力いただき、なるべく多くの方が一緒に捜し、少しでも早い発見を目指すことが重要です。

臼杵市では平成 28 年度から、地域で認知症の人が行方不明になった場合の備えをするとともに、認知症の人とその家族を地域で見守る体制づくりのため、地域における行方不明者の搜索模擬訓練を行ってきました。

平成 31 年度は「認知症の方への声かけ模擬訓練」として、搜索ではなく認知症の人への「声かけ」に重点をおいた訓練を行いました。声かけ終了後は直接、専門職より助言をもらうことができるため、その場で振り返りができ、より詳しい対応や認知症への理解を深めることのできる訓練となりました。

今後も、この訓練を通して、みんなで支え合うことのできる地域づくりを進めていきます。

第3節 認知症の人とその家族への支援

1 介護者のつどい・家族支援プログラム

認知症の人を支える家族の負担を軽減し、安定した心で生活できるよう、認知症の人とその家族を支援する活動を推進します。

認知症の人と家族の会大分県支部に委託をして、「介護者のつどい・家族支援プログラム」を開催しています。「介護者のつどい」は家族同士が支え合い、悩みを打ち明け共有できる場となっており、「家族支援プログラム」は、家族の介護で疲れている人、悩んでいる人、認知症について学びたい人を対象に適切なサービスについての情報提供や専門医による公開講座等を行います。

9月のアルツハイマー月間に合わせて、街頭啓発等の普及啓発を行います。

■ 令和2年度に行った家族支援プログラムの内容

第1回	認知症という病気を知る(基本的理解)
第2回	寄り添ってみよう、相手の心(認知症当事者の気持ち)
第3回	若年性認知症について・臼杵市の認知症施策と認知症地域支援推進員
第4回	家族の気持ち・状況
第5回	公開講座
第6回	講座のまとめ(認知症の予防、生活障害への対応、地域での支え方)

■ 実績と計画

	第7期実績(見込み)			第8期計画		
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
家族支援プログラム(回)	6	6	6	6	6	6
介護者のつどい(回)	6	6	4	6	6	6

2 若年性認知症の人への支援

認知症は、一般的には高齢者に多い病気ですが、65歳未満で発症した場合、「若年性認知症」とされます。65歳未満というのは働き盛りの世代ですから、病気により経済的に困難な状況に陥り、本人だけでなくご家族の生活へ影響を及ぼすことも予想されます。また、ご本人や配偶者の親の介護が重なり、介護の負担が大きくなることもあります。そのため、早期発見・相談体制の構築、本人の居場所づくり、就労・社会参加支援等、県若年性認知症支援コーディネーターと連携して総合的な支援を講じていきます。

3 オレンジカフェの開設と展開

オレンジカフェ(認知症カフェ)とは、認知症の方やその家族だけでなく、地域住民など誰もが参加でき、集い、カフェのような雰囲気の中でお茶を楽しみながら交流や情報交換ができる場所です。認知症地域支援推進員や地域包括支援センター等の専門職も参加しているため、気軽に相談することもできます。

平成 28 年度に臼杵市中心部に最初のオレンジカフェを開設し、現在は 3 ヶ所のオレンジカフェにて、毎回多くの方々の居場所として利用されています。希望者には無料でタッチパネル検診を行うこともでき、軽度の認知機能障害の早期発見につなげることが可能となっています。

今後は、認知症の診断を受けた本人及びその家族に対する支援として認知症ピアサポーターの派遣(ピアカウンセリング)、若い世代の介護者(ダブルケアラー・ヤングケアラー)を対象とした新たなオレンジカフェの開設と展開を目指していきます。

■ 実績と計画

	第7期実績(見込み)			第8期計画		
	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
オレンジカフェ設置数	2	3	3	3	4	4



オレンジカフェ

ほんと
オレンジカフェ
臼杵市社会福祉協議会
第2・第4 火曜日
10:00~12:00

詳しい内容についてはお問い合わせください

**オレンジカフェ
みなみ**
南津留地域
コミュニティセンター
第1・第3 金曜日
10:00~12:00

**オレンジカフェ
だんだん**
旧田野小学校 図書館
毎週月曜日
10:00~12:00

オレンジカフェ＝認知症カフェをご存知ですか？
認知症の方やその家族だけでなく、地域住民、専門職など誰もが参加でき、集い、カフェのような雰囲気の中でお茶を楽しみながら交流する、みんなの「居場所」。介護ストレスの軽減だけでなく、あらたな出会い、地域とのつながりの場です。訪れることは自由で、帰ることも自由です。
お茶だけでも良いのです。
介護保険制度や地域の社会資源をよく知る専門家などが関わっているので、気軽に相談できる場もあります。ぜひ、気楽な気持ちで一度訪れてみませんか？

受付でも検温を行います。(37.5度以上ある方は参加出来ません)また状況に応じて、参加についてご相談させて頂く場合がありますので御了承ください。
開催中は適時換気や消毒を行います。皆様のご理解とご協力の程よろしくお願い致します。

コロナ対策にご協力をお願いします

参加される方へ
おねがい
・家を出る前に検温をし、風邪症状等ある場合はご遠慮ください。
・必ずマスクの着用をお願いします。

第4節 認知症支援ネットワークの構築

1 認知症サポーター養成講座

臼杵市では、認知症に関する情報を普及啓発し、認知症高齢者の支援につなげていくために、認知症の人とその家族への支援者である「認知症サポーター」の養成を行っています。令和2年10月現在、臼杵市の認知症サポーターの人数は8,600人を超え、これは臼杵市民の約22.7%にあたり、全国平均よりも高い割合となっています。

大人だけでなく、子どもたちも認知症について学ぶことが重要と考え、平成24年度から小学生を対象に「キッズサポーター」、平成28年度から中学生を対象に「ジュニアサポーター」養成講座を開催しています。

今後は、認知症サポーター及びキッズ・ジュニアサポーターの養成を推進するとともに、養成後は認知症サポーターの資質向上のため、ステップアップ講座を行い認知症の人とその家族を地域で見守る体制づくりを目指していきます。

■ 認知症サポーター養成講座実績

		第7期実績(見込み)			第8期計画		
		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
一般向け	開催回数	16	34	10	24	24	24
	参加人数	447	985	250	480	480	480
キッズ	開催回数	1	4	1	1	1	1
	参加人数	28	148	40	40	40	40
ジュニア	開催回数	2	3	2	2	2	2
	参加人数	318	292	150	100	100	100

2 臼杵市認知症の人にやさしいお店・事業所

認知症サポーター養成講座を受講し、認知症について正しい知識を身につけた認知症サポーターがいるお店・事業所のしるしとして、「臼杵市認知症の人にやさしいお店・事業所」の認証ステッカーを作成し、配布しています。ステッカーを掲示することで、認知症の人が安心して買い物等ができる目印となります。



お店・事業所に配布するステッカー

■ 認知症の人にやさしいお店・事業所登録数実績

	第7期実績(見込み)			第8期計画		
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
登録数	76	82	86	90	95	100

3 臼杵市認知症高齢者等SOSネットワーク

地域で高齢者等の「行方不明」などの事案に対応できるよう、警察署、消防署だけではなく、幅広く市民が参加する検索・発見・通報・保護や見守りに関するネットワークづくりを進めるために、平成 26 年度に関係協力機関による臼杵市認知症高齢者等SOSネットワークの運用を開始しました。

このネットワークの最大の特徴は、行方不明となるおそれのある認知症高齢者等について、事前登録ができる点です。本人の写真や身体的特徴など、検索に必要な情報をあらかじめ家族等から提供してもらっておくことで、行方不明になった場合、関係協力機関への情報発信が迅速に行われ、行方不明者の早期発見につながります。

平成 31 年度には「大分県における認知症高齢者等の行方不明に関する広域連携」により、市町村を越えた広域での早期発見の協力体制が整えられました。

今後も関係機関とのネットワークのさらなる強化に努め、円滑かつ迅速な対応ができる体制づくりを推進します。

■ ネットワーク図

